鯛ラバー虎の巻

遊漁船あこう来島海峡実戦報告

目次	1
前書き	3
1章 来島海峡の釣り場	4
1、岩礁形釣り場	4
2、サンドウェーブ形釣り場	5
3、反転流形釣り場	6
4、複合形釣り場	7
2章 釣り人から見た鯛の生態	8
1、鯛は潮の流れ、動きに敏感である	8
2、鯛は常に泳ぎ回っている	8
3、水中での視界は10m程度、目で見える範囲は限られている	8
4、鯛は音や振動、潮流圧などを感じ分け立体的に捉えているのではないか	9
5、鯛は音と振動で餌を探している	1 0
6、鯛は色々な場所にいる	1 0
7、鯛は群集性と単独性が有る	1 0
3章 鯛の捕食習性	1 1
1、鯛は何でも食べられる事を学習している	1 2
2、鯛の歯は何回でも生え換わる	1 2
3、時期、餌による当たりの違い	1 3
4、当たり=捕食では無い	1 4
4章 鯛ラバーの釣り方	1 5
1、フォール、引き、カブラ操作の基本	1 6
2、当たりと合わせ方	1 6
3、潮の動きを感じ取れ	1 7
4、竿の構え、しなりを生かせ	18
5、カブラ操作の極意「音で引き付け、その気にさせろ、見られると負け」	1 9
6、VS巻きと更なる超絶技巧とは	1 9
7 釣り座での心得 開始合図で直ぐ投入 流し中はカラーチェンジしてはダ	× 2.1

5章 カブラのセッティング	2 2
1、ヘッド形状、材質の比較	2 2
2、針、チモトの選び方	2 6
3、ラバー	3 1
4、セッティング	3 8
5、スナップ金具の利点	4 4
6章 道具	4 5
1、道糸、リーダー	4 5
2、竿、リール	4 9
3、タックルバランス	5 0
7章 釣り仕度と船上での心得	5 1
1、服装、荷物	5 1
2、釣り座の優劣	5 2
3、タイドグラフの見方	5 2
4、仲間を増やそう、乗合船の楽しみ	5 3

前書き

あまた有る釣りの中で鯛ラバーに出会った皆さん、奴らの手強さに悔しい思いを何度した事か「かぶりを振り猛ダッシュで逃げて行った奴は胸の内で大きく成るばかり。」「何度当たっても、何度掛けても取り込めず頭の中を大群が回り続けるばかり。」「奴らに一泡吹かせてやらねば収まりがつかぬ。」私が幾度も味わった経験です。

奴らに勝には住処や習性を知る事、釣行のたびに潮流、海底地形、当たり方、引き方、針掛かり、釣果、などあらゆる事を観察し続ける事が大切です。観察眼が備わって来ると、鯛の行動を予想し状況に応じた釣り方を展開する事が出来る様に成り、上達して行く様に成ります。また鯛ラバーが近年注目される様に成ったのは、鯛カブラを生み伝統を伝えた人、それに注目しゲームフィッシングへの応用を考えた人、高強度極細PEラインを開発したメーカーなど、多くの人の成果に依る物ですが、これらを使いこなすには釣り人にも高い技術が必要です。また、それだけに釣り人の経験や工夫を生かせる所が随所に有ります。

鯛ラバー愛好者の方、これから始めようとする方へ、鯛ラバーは良くも悪くも大物狙いの釣でルアーフィッシングです。「釣り人自身の腕に鯛が喰い付いて来る所に、面白さ、奥深さが有ります。」私がホームグランドにしている来島海峡で得た経験と自前分析を参考にして頂き、皆さんの釣道上達の一助になれば幸いです。

2010年 2月 2日 遊漁船 あこう 船長 遠藤幸助

1章 来島海峡の釣り場

来島海峡は瀬戸内海でも特に潮流が速く、更に海峡中に七つの島が散在し複雑な地形と潮流により季節や潮回りに応じた多くの釣り場が有りますが代表的な形を4通り説明します。いずれの釣り場も潮の流れが速く複雑な地形です。それぞれの特徴を理解しておく事が、釣り方や仕掛けの説明を理解する為の基本となります。

1、岩礁形釣り場

2、サンドウェーブ形釣り場

3、反転流形釣り場

4、複合形釣り場

2章 釣り人から見た鯛の生態

船釣りでは対照魚を探すのに魚群探知機を使いますが、ハマチ、アジ、イワシなどと違い、鯛は 釣れている時でも魚影が映らない場合が殆どです。これはハマチ、アジ、イワシなどの背中は丸み の有る形をしている為、超音波の反射が真上に戻りやすいのに対し、鯛の背中は鋭角で超音波が横 方向に反射し真上に戻り難い為、普通の姿勢で泳いでいる時は映ら無いからです。鯛が映る場合は 活発な動きで上下左右に反転し、側面や頭部の反射が真上に戻った時に限られます。この為、魚群 探知機に映る魚影を頼りにしていたのでは、鯛を見つけられるのは限られた条件の場合だけです。 鯛を見つけるには、多くのポイントを釣り回って見る事しか有りません。当たったポイント、潮の 状況など様々な事を観察し、それを積み重ねた中で私が来島海峡で感じた鯛の生態について考えて みたいと思います。

1、鯛は潮の流れ、動きに敏感である

「鯛は潮を釣れ」と言われますが来島海峡では、潮の動き始め 0.5 ノットから 2 ノットぐらいに流れ 出した時や、流れの方向が変化した時。速い潮が 2 ノットから 0.5 ノットぐらいに緩んだ時に、時合 いに成る事が多く複雑な地形の釣り場ほど潮の速さ、方向に応じ敏感にポイントが変化します。こ れは釣り人で有れば毎回 感じている事だと思います。

2、鯛は常に泳ぎ回っている

サンドウェーブ型釣り場で潮流が1ノットから2ノットの日、当たりが2~3時間、釣り場じゅう移動しながら続く事が有りますが、そこの鯛は潮流と同じかそれ以上で、何時間も泳ぎ続けている事になります。又同じ釣り場でも1日ごとに当たったり、当たらなかったりする事も日常で有り、岩礁や漁礁など決まったポイントだけで釣れる訳でも無く、釣りの出来るポイントへ来た時に釣れると云う感じで、常に回遊しているのだと思います。

3、 水中での視界は10m程度、目で見える範囲は限られている

皆さんは海に潜った事が有りますか、瀬戸内海に夏、潜ると視界は10mも見えれば良い方です。 鯛の視力は解りませんが、透明度以上の視界は無いはずです。地上で例えると濃霧の中に居る様な 状況ではないでしょうか。それにも拘わらず鯛は岩礁やサンドウェーブの様に複雑な地形を好んで 集まり、その中を自由に泳ぎ回る事が出来るのでしょうか。鯛には遠くまで見渡せているとしか思 えないのですが。



瀬戸内海では精々10m程度の視界では?



海中ではこれだけの視界は有り得ません。

4、鯛は音や振動、潮流圧などを感じ分け立体的に捉えているのではないか

地上で生活する人間は物を探したり、移動したりする場合、主に視力を頼りに活動し聴覚や触覚などは補助的な役割です。しかし暗闇の中や濃霧の中など視力に頼れない状況に置かれると、聴覚や触覚などが急に鋭くなった感覚を経験された事が有ると思います。環境が変わると頼りになる感覚も変わって来るのです。まして海中は地上とは別の世界で、人間の感覚は全く通用しないのです。

それでは何故、鯛は視界の利かない海中を自在に泳ぎ回われるのでしょうか。視覚以外の感覚器が発達しているのではないでしょうか。海水の密度は空気の800倍近く有り、その中に居る鯛の体の密度も海水と同程度なので音、振動は全身に伝わるのでとても敏感なはずです。更に水中での音速は1500m/sec と空気中の4倍以上高速です。これらを考え合わせると、海中では音や振動や圧力波などから得られる情報が、光による情報より遥かに多いずです。鯛は人には無い感覚で音や振動や圧力波を感じ、海中の地形や潮流を立体的に捉え、その範囲も数百m、時には数kmにも及ぶのではないかと私は考えています。



5、鯛は音と振動で餌を探している

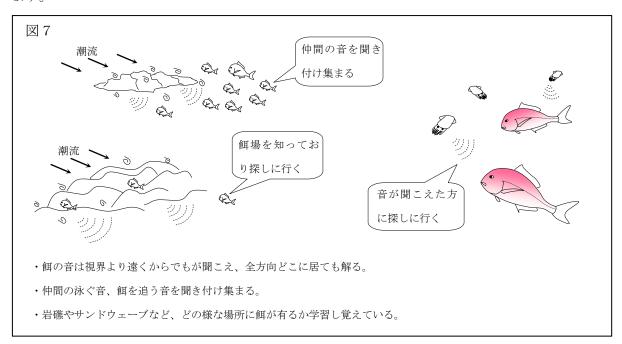
鯛ラバーでは餌釣りのポイントとして、見向きもされない場所で鯛が良く釣れたり、ポイント移動1回目に良く当たりが出たりします。又カブラを引く速度の遅い人と速い人では、速い人に良く当たります。これらの事と3、4、を考え合わせると鯛は音や振動を感じて餌を探し、近づいて視界に入ると捕まえると私は考えています。

6、鯛は色々な場所に居る

餌釣りでは、岩礁形釣り場などポイントのハッキリしている釣り場で鯛を狙いますが、ポイントが散乱しているサンドウェーブ形釣り場などは殆ど狙いません。しかし鯛ラバーではどの釣り場でも良く釣れ、他にも潮目の有る場所なら砂浜や防波堤沖など鯛が居ないと思われている場所でも釣れます。

7、鯛は群集性と単独性が有る

5月頃の産卵期から7月頃にかけては、時合いに当たりが連続し魚探にも映る様な群れに成る事が良く有ります。群れに成ると競争心理で良く当たるのだと思いますが、その反面、群れは移動しやすく翌日は釣れない事も良く有ります。8月以降は魚探に映る事が少なく成りますが、ポイント移動を繰り返すとそのたびに当たりが拾える様な日が多くなり単独や少数で活動している感じがします。



3章 鯛の捕食習性

来島海峡では周年、鯛が釣れますが良く釣れるのは $4月\sim11$ 月頃で7ヵ月間と長く時期によって主となる餌が変りその都度、鯛の捕食行動が変化して行きます。捕食行動やその変化を知り、釣り方やカブラのセッティングに生かして下さい。

1、鯛は何でも食べられる事を学習している

釣り上げた鯛が食べた物を吐いたのを見た人も有ると思いますが、鯛は何を食べているのでしょうか。来島海峡で釣れた鯛を捌き胃の中を見ると蟹、海栗、貝、フジツボ、ヒトデ、ナマコ、タコ、海藻などが出て来ます。意外に釣り餌に使う海老、小魚、イカ、などは少ないです。ただし消化の悪い物は残りやすく、良い物は残り難くい事による可能性も有ります。食べている種類は2~4種類で、大きな鯛ほど食べている種類が多い傾向が有ります。食物を見て解る事は、鯛は小魚やイカを捕まえる敏捷性が有る。蟹や海栗など堅い物を噛み砕く力が有る。また多くの種類の食物を知り見分ける事が出来る。それぞれの食物の居場所を知り回遊している。更には成長するに従いその経験が蓄積されている。など運動能力や知能に優れた魚で有ると事が食べ物から解ります。

2、鯛の歯は何回でも生え換わる

釣り上げた鯛の針を外そうとして、並んでいる立派な歯を見た人も多いと思います。間違って指でも噛まれたら大変です。大鯛に成ると浮き袋の空気抜き用 真鍮パイプを、平気で噛み潰してしまう力が有ります。

私は鯛の顎骨標本を数体もっています。それを観察すると、前歯に上下4対の大きな犬歯が有りその横に3、4本の小さい犬歯が有り、続いて丸型の臼歯が2列で15、6本並んでいます。この歯並びから、前歯は噛み付いたり、喰いちぎったりするのに適した形で有る。奥歯は堅い物を噛み砕くのに適した形で有る事が解ります。これは食物への適用範囲が広い優れた構造で有ると言えます。更に一本ずつを見ると綺麗な歯も有りますが、傷の有る歯も多く、先端の折れた犬歯、磨り減った臼歯が有り貪欲に捕食している事が伺えます。更に標本には臼歯が抜けている個所が有りますが、顎骨に開いた穴の奥に新しい臼歯が控えているのが見え、抜けても直ぐ新しい歯に代わり、優れた歯の構造を維持し続ける機能が有る事も解ります。

図8、真鯛の顎骨標本 1999.5.16 来島海峡 3.7kg







3、時期、餌による当たりの違い

鯛ラバーに来る当たりは時期により何度も変化します。これはその時、主に食べている物や水温、更に群れの状態や体調が関係していると思われます。しかし海の環境は年により変わり、鯛の餌となる生物の発生状態も一定では有りません。鯛は好きな物を選んで食べるよりも、沢山有って豊富に食べられる餌に付いている様です。また4キロ位の大きさに成るとタコやイカが好物のようで時期に関係なく食べています。

(1) 3、4月、水温10~14度

- ・低水温に慣れた後、水温上昇して来る時期なので活発に動き産卵に向け体重も増えています。
- ・イカナゴ、アミ、クラゲの様な物、海藻などを食べている様です。
- ・カブラを追いかけ咥えこむ様な当たり、押さえ込んだ後に咥えこむ様な当たりがこの時期の典型で針掛は良いです。

(2) 5月、水温15~18度

- ・産卵期にあたり、産卵場所で大きな群れに成る事が有ります。また産卵を終えると急に居なく なる時が有ります。
- ・イカナゴ、アミ、ミミイカ、クラゲの様な物、海藻などを食べている様です。
- ・群れて浮き上がるっている時は、いきなり引きこむ事も有り、ヘッド部分への当たり、横方向 からの当たりも有ります。カブラを追いかけ咥えこむ様な当たりも有ります。状況により当 たり方は違いますが針掛は良いです。

(3) 6、7月、水温19~24度

- ・産卵を終え水温も上昇し浅場にも回遊して行き最も活動的な時期で、群れている事が多いです。
- ・蟹、海栗、貝、フジツボ、ヒトデ、ナマコ、イソギンチャク、ホヤ類、タコ、海藻など海底生物を主に食べており食欲は旺盛です。
- ・噛みつく様な激しい当たりで針が口の外に掛る事が多く、大きく竿を曲げても針掛しなかったり、掛っても直ぐ外れたりでバラシ多発の日が有ります。特に群れで浅場に回遊している場合は、まるで変身した様に激変し「超マダイ」になります。

(4) 8月、水温25~26度

- ・1年で最も水温が高くなる時期で群れも分散し、様々な場所がポイントになります。
- ・小イカ、マイコエビ、などが出る時期です。海底生物も食べています。
- ・ビョーンと引っ張る様な当たりが有ったり、ガツガツと力強い当たりが出たりと、同じ魚とは 思えない様な変化をします。餌の種類や量が豊富に有る影響と思われます。

(5) 9、10月、水温25~22度

- ・水温がゆっくり低下し浅場からは離れて行きます。潮回りや天候などで回遊場所が日々変わります。魚体も太って体力も充実しています。
- ・小貝を沢山食べている事が有ります。他はやはり海底生物が主体の様です。
- ・ガツガツと力強い当たりが多く針掛は良いですが、掛ってからの引き、暴れ方が激しく、針が伸されたり、リーダーが切れたり、バラシ多発の「暴れ鯛」になります。

(6) 11月、水温21~18度

- ・水温が低下した日は活動が鈍っている様ですが、天候や潮回りの条件が揃うとまだまだ好釣果 を得られる日が有ります。
- ・海底生物が主体の様です。
- ・水温が低下した日は引っ張る様な当たりなど弱々しい感じですが、天候や潮回りの条件が揃う とガツガツと力強い当たりの日も有ります。

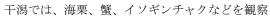
図9、鯛の餌(鯛の胃から出て来る物を干潟、磯で撮影)



鯛は岩礁や砂泥底で毎日、様々な物を探し見分けている。貴方は干潟や磯(図10)でどれだけ見つける事が出来ますか。自然界で生きる力は鯛の方が優れていると思いませんか。

図10、鯛の餌場の想像(岡山県浅口市の海岸)





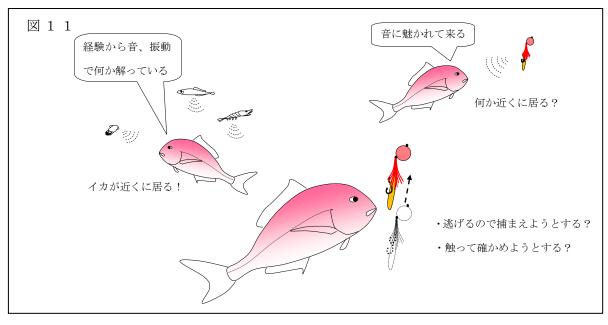


磯では、フジツボ、ヒトデ、ホヤ類などを観察

4、当たり=捕食では無い

鯛ラバーでは当たりが有ってもそのまま巻き続けろと言われています。当った時 手を止めるとその瞬間 見事に放します。またゴツゴツと当たりが有っても途中止めにする事も良く有ります。当たり=捕食で有ればこの様な事が頻発するのには疑問が有ります。

ここで2章 鯛の生態で述べた音、振動に対する感覚を考えて見ると、カブラの音を聞いた時すでに、いつもの餌とは違うと感じているはずです。更に3章 鯛の捕食習性で述べた食べ物の学習を考えて見ると、あれだけ多くの餌を見分ける事が出来るのに、カブラと餌を見間違える事も無いでしょう。では何故当たるのでしょうか。私は前述の事柄より鯛には知恵が有ると思っています。人間は触覚として手を良く使いますが、鯛には口以外に触覚を感じる場所は無さそうです。興味の有る物を触って確かめるとしたら、口でカブラを触っているのです。人間の固定観念で口に物を入れる事が捕食とは限らないのです。興味の有る物は口で捕まえてみる、何でも口で触ってみると言う習性で見た事の無いカブラを触っているのだと思います。



4章 鯛ラバーの釣り方

鯛ラバーはルアーフィッシングです。付けているだけで釣れるカブラなど存在しません。釣る為の絶対条件は良い動きでそれに勝る方法は有りません。改めて言われると、そんな事は常識だと皆さん思われるでしょうが、しかし実際には今釣れる色は何かとカラーチェンジばかり行い、動かし方は変えない人が多くいます。これでは絶対条件が良いものに進歩せず上達が望めません。

釣り人の腕がカブラに命を吹き込み喰い付かせるのです。これを船上で常に忘れないで下さい。

1、フォール、引き、カブラ操作の基本

ポイントに到着したら道糸、リーダーに合わせたドラッグ調整とメカニカルブレーキの調整をして開始の合図でガブラを投入し釣り始めます。基本操作は簡単ですが、当たりが出るまで誘い続ける粘りが何より必要です。

(1) フォール

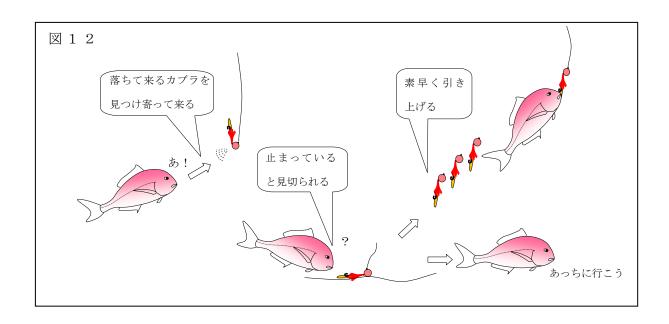
カブラを投入すると糸の出る速度と色を良く見ておきます。速度は少しずつ遅くなり、糸の色で水深の見当が付きます。着底すると糸の出る速度が変わり糸フケが一瞬出るのでその瞬間を見逃さないで下さい。糸の出がハッキリ止まる事はまず有りません。慣れるまでは糸フケが解り難いかもしれませんが、初めは糸の出に少しでも変化を感じたら直ぐ巻き始めて下さい。初心者は着底を確認しようとしますが、それでは根掛が多発しカブラが取られリーダーも切れたりします。30分もすれば誰でも慣れますので、糸の出に少しでも変化を感じたら直ぐ巻き始めて下さい。

(2) 引き

着底の瞬間を見逃さず瞬時にリールを巻き始めて下さい。速さは秒速 $1\,\mathrm{m}$ が基本ですが $1\,1\,\mathrm{f}\sim2\,\mathrm{flt}\,0.7\,\mathrm{m}$ 位です。巻く棚は $5\,\mathrm{c}\,6\,\mathrm{flt}\,1\,0\,\mathrm{c}\,1\,5\,\mathrm{m}$ でそれ以外の時期は $5\,\mathrm{c}\,1\,0\,\mathrm{m}$ ですが状況により変わります。棚まで巻き上げると、フォールに戻ります。巻く速さ、棚は正確に掴む事が必要です。糸のマーキング $1\,0\,\mathrm{m}$ がハンドル何回転か数えておき、回転数で棚を計りましょう。

(3) カブラ操作のコツ

カブラの釣りのスタートはフォールです。フォールで鯛の居る棚へ下向きに泳いで行きます。 着底の瞬間ボールが地面で跳ねる様に、瞬時に引き上げて下さい。フォールで寄って来た鯛 が底で止まったカブラを見ると、見切って逃げ当たりが減ってしまいます。引き上げ開始が スタートでは有りません。着底、切り返しは通過点です。また岩礁ポイントでは根掛を避け る為にも瞬時に引き上げましょう。



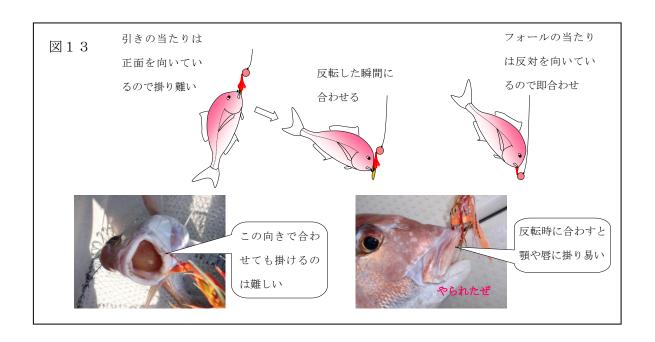
2、当たりと合わせ方

3章 鯛の捕食習性で説明した様に鯛ラバーの当たりは様々で、合わせもそれに対応したものが必要ですが基本動作を説明します。合わせが決まり手応えを感じた瞬間が鯛ラバーの魅力の一つです。

- (1) ゴツゴツと来てググッと引き込む当たり ガツガツの後巻き続けググッと引き込んだ時ゆっくり大きく合わせます。一秒で頭の高さ位 の速さで、鯛が突っ込んだ場合 手が止まる位の力が良いでしょう。
- (2) ガツンガツンと来てギューンと竿をひったくる当たり 来島海峡の鯛は当たりの強いものが多く、最初のガツンガツンの手応で針掛したと感じる人 もいますが、ここで合わせると空振りする事が多く、次に来るギューンと竿をひったくる当 たりが合わせのタイミングです。鯛の引きが強いので合わせ切れしない様、竿を起こしため る様に合わせます。

(3) 合わせのコツ

当たりの殆どはカブラを引いている時に来ます。その時、鯛はこちら側に真上を向いており、 その状態で合わせても針掛りは難く、掛っても良い針掛は期待出来ません。良い針掛をさせる 為にはカブラを咥えた鯛が反転し、反対方向へ向いた瞬間に合わせを入れる事が必要です。ま たフォール中に当たる時も有りますが、その場合は鯛が反対を向いているのでスプールを抑え 瞬時に合わせます。いずれにしても当たっている瞬間は鯛に主導権が有ります。経験を積み合 わせのタイミングを覚えて下さい。



3、潮の動きを感じ取れ

カブラ操作の基本を説明しましたが、それだけでは来島海峡の激流を攻略する事は出来ません。糸を伝わる感触で潮の流れを察知し、状況に応じたカブラ操作をする事が必要です。1章 来島海峡の 釣り場解説の潮流を理解して、激流を掻い潜り鯛の居場所にカブラを通して下さい。

(1) フォール中の技

激流中でのフォールはただ糸を出しているだけでは糸フケが多くなり、着底を見極める事が難しくなります。フォールが悪くなると鯛を引き付ける事が出来ず当たりが減るだけでなく、根掛が多くなります。良いフォールをさせる為には常に糸の出る速度に注意しフォール速度が遅くなった場合は次の様な事します。

- ・水深以上に糸がでる場合、途中で5~10m程度、糸を高速巻きして再びフォールさせる。
- ・棚を引き終わった後5~10m程度、糸を高速巻きして糸フケを取る。
- ・数回置おきに糸を水深の半分程度まで巻き糸フケを取る。
- ・それでも難しくなったら巻き上げて入れ直す。
- ※糸フケが多くフォールが遅い状態で粘るより、速いフォールを1回させた方が当たる可能性 は高くなります。これは近づいて来る獲物の方が見つけやすく、捕まえやすいからです。速 いフォールは鯛を引き付ける為に重要な条件です。

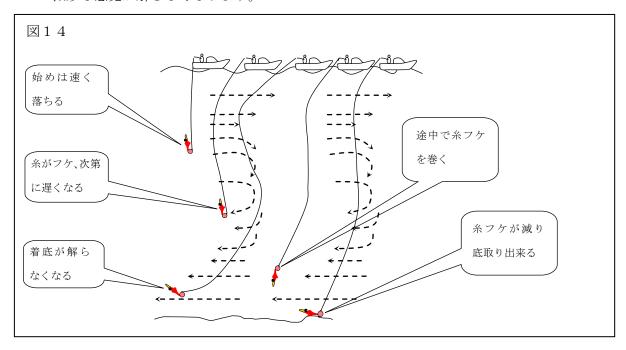
(2) 引きの技

フォール速度が遅く、引いた時カブラを重く感じる様な状況では糸フケが出来ています。糸フケが多くなるとリールで巻いた速度よりカブラの速度が遅くなります。この様な場合は次の様な事をします。

- ・糸フケの程度に合わせ引きの速度を速くする。
- ・引き始めの1~2mは特に糸フケの影響が有るので、この範囲の速度を速くする。
- ・糸フケの程度はフォール速度が遅くなるほど多くなるので、常にフォール速度に注意する。

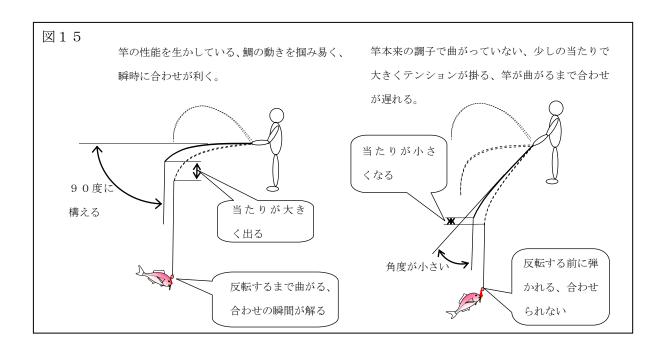
(3) 潮流察知のコツ

潮流を察知するには穂先が利いた角度で竿を静止させておく必要が有り、体のバランスで波の動きを吸収し角度を保ちます。そうすると糸の出る速度変化、微妙な糸フケ、巻いた時ハンドルの重さが良く解ります。竿を振って糸を出したり、着底時竿をあおるなどの動きをすると、微妙な感覚が解らなくなります。



4、竿の構え、しなりを生かせ

釣り方のなかで、カブラを引く速度や棚を気にする人は多いですが、竿の構えを意識して釣られている人は意外に少なく、間違った構えを取っている人が多くいます。竿の調子は釣り人の好みにより、軟調から硬調まで様々な竿が使われていますが、利き腕の延長で手の感覚と一体化させる事が出来る様に、竿のしなり、穂先の感度、が最も生かせる角度で構えることが大切です。竿の構えの基本は、道糸と竿元の角度が90度です。道糸は釣っている間、左右や船の下、船から離れる向きなどに常に変化します。その動きに合わせ竿の向きを変え90度を維持して下さい。90度は当たりが有った時、穂先がセンサーの様に利き竿全体のしなりが生かせる角度なのです。間違った構えの多くは、竿を下向きに構えています。これでは道糸と竿の角度が足りず竿の性能が引き出せていません。当たりの感度も鈍り、途中で当たりを弾いたりしますし、鯛が反転した合わせの瞬間を掴む事も難しくなり、更に合わせも遅れる事になります。竿は曲がった時にその性能を発揮する事を忘れないで下さい。



5、カブラ操作の極意「音で引きつけ、その気にさせろ、見られると負け」

この章の冒頭で述べた釣る為の絶対条件、良い動きとは視覚で捉えるものだけで無く、音、振動を 含めたものです。視界の外に有るカブラの音、振動を感じた鯛を「何かいる探せ」と、引き付ける 動き。カブラを見た瞬間「あ!逃げる捕まえろ」と、その気にさせる動き。が良い動きなのです。 じっくり見せてこのカブラは素敵ですよ、などは知恵者の鯛に見切られ負けです。

6、VS巻きと更なる超絶技巧とは

鯛ラバーはゆっくりただ巻きと書かれている釣誌が多く、そう思っている釣り人も多いと思います。 しかしルアー釣りにおいてただ巻きが最善策なはずが有りません。私が実践で得た経験では効果の 有るアクションが存在するのです。この章で説明した事が出来る様になった人は、更に上を目指し 高等技術に挑戦して下さい。ただし潮流察知や竿の構えが出来て無いと、的外れな動きになりかえ って当たりが減る結果になるので基本をしっかり身に付けてから挑戦して下さい。また船上で終日 続けないと技を会得し効果を実感する事は出来ません。何回か試してみる程度では無意味です。

(1) VS巻き鯛の間合いを計れ(VS=Variable Speed=可変速度)

この技は、引き速度を速くして行くと良く当たるように成るが、速くすると針掛かりが悪くなるので最適の速度を探る。また潮が速い時 糸フケを取る為に着底後の $1\sim2$ mを速く巻く。この二つを実践する間に、当たりが増えると同時に針掛が良く成る事に気づき生まれました。VSとは Variable Speed 可変速度の事です。立ち上がりを速くその後、速度を落とす事で、音、振動、動きの変化で鯛を引き付ける効果を上げ、針掛の良い速度にして掛ける事の両立を狙ったものです。

- ・釣り方のコツ第1 着底後の立ち上がり $1 \sim 2 \,\mathrm{m} \, \epsilon$ 速く巻きカブラを見つけた鯛から獲物が逃げる動きを演出して やる事。
- ・釣り方のコツ第2

立ち上がりの長さ、速度は潮流を察知し常にカブラの動きをイメージし加減して下さい。

・釣り方のコツ第3

良い竿の構えで滑らかにリールを巻きカブラにバタ付いた様な不自然な動きを出さない事。

・釣り方のコツ第4

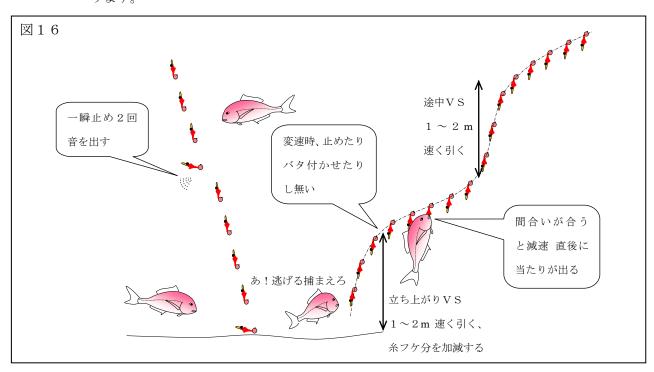
逃げる動きが大き過ぎ鯛の間合いから外れ、本当にカブラが逃げては当たらない事です。この間 合いを計る事が一番難しく、絶妙の間合いで速度を緩めた直後の当たりを掛けた時は快感です。

・釣り方のコツ第5

鯛が10m程度浮いた状態では、立ち上がりだけでなく途中でVSを入れても効果が有ります。

・釣り方のコツ第6

フォールの途中で一瞬、止めを入れる方法も有ります。 ただし潮が速い場合は底取りが難しくなります



(2) 超絶技巧コンニャクハンド

この技は3章3、時期餌による当たりの違いで説明した、引っ張る様な当たりや、弱々しい当たりなど、そのまま巻き続けると直ぐ放したり、喰い込まない時の必殺技です。この技を実現する為には柔軟で高感度な穂先の竿と、後述のカブラセッティング両方の道具が準備された上で、動きを止め待つという逆転の発想が必要です。しかし糸を緩めない様に素早く巻きを止める事は超難関で簡単に出来る技では有りません。説明しても出来ないと諦める人もいます、しかし成功した時 釣れない魚を釣った喜びに感激する事でしょう。

・釣り方のコツ第1

ビョーンと引っ張る様な当たりが穂先に出た瞬間、穂先の曲がりを保持する様にリールを 巻く手の力を加減してやる事です。速度はその時 鯛が追って来る速度に合わせ、巻かず、 止めずの感じです。

・釣り方のコツ第2

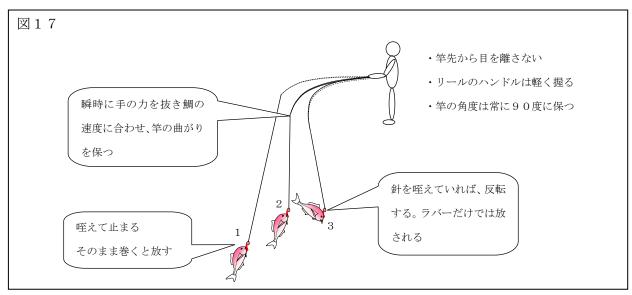
鯛がカブラの先端を咥えた時、口に針が入っていなければ成りません。ラバーを咥えているだけでは殆どの場合、放してしまいます。この為にカブラセッティングが重要になります。

・釣り方のコツ第3

針を咥えさせた状態で待っていると、鯛が動き反転するのでその時合わせを入れてやる事。

•弱点

この技は釣り人が当たりに集中し心構えしていなければ対応出来ないので、変な当たりが 続いている時は出来ても、いきなり来られると対応が難しいです。



7、釣り座での心得、開始合図で直ぐ投入、流し中はカラーチェンジしてはダメ

鯛ラバーの釣り方の終わりに釣り座での心得について、先ず開始合図が有ったら直ぐ投入しましょう。投入すると仕掛けは潮流を受け斜めに傾いて行きます。後から入れる人がいると、斜めになった仕掛けの上に重なり仕掛け絡みを起こす原因になります。また底取りがし難い状況で糸を出し過ぎると仕掛け絡みを起こすので、この時は仕掛けを上げ入れ直しましょう。流し釣りは釣り場で潮の上流で仕掛けを入れ、下流で上げ元に戻るこの繰り返しです。カラーチェンジが必要なら船が戻っている間に行い、流している間はバラシや根掛で点検する以外にカブラを上げないで下さい。その時、鯛が回って来ても不要に上げている人はチャンスを放棄した事になります。

5章 カブラのセッティング

カブラは先人達の知恵で生まれた鯛釣りの素晴らしい仕掛けです。しかしカブラは錘と針が一体で数センチしか離れておらず、当たった時に錘が針を邪魔したり、掛った鯛が頭を振った時に錘が針を振り回し外れたりするので、カブラの構造自体が釣り人のハンディキャップと成ります。鯛ラバーでは当たった奴をいかに掛けるか、掛けた奴をどれだけ取り込めるかが釣果に直結します。仕留められる確率を上げるには、状況に応じたセッティングを見つけ出す事が鍵と成ります。しかし現状ではラバーの色にこだわる人は多いのですが、セッティングの重要性を認識している人は殆どいません。色にこだわっても針掛を良くし、バラシを減らす事は出来ません。当たった鯛を一つでも多く仕留める為には、セッティングを追求して下さい。

1、ヘッド形状、材質の比較

現在市販されているカブラのヘッドは形状で大まかに分けると、丸型、扁平型、流線型が有り、材質で分けると鉛とタングステンが有ります。それぞれに長所、短所が有りますが、ヘッド選びの基準は、「重さ≒大きさ」です。自分の道具や技術、釣り場に合った物を選んで下さい。「重さ≒大きさ」の違いによる影響は下表の様に成ります。

ヘッドの重さ	軽い← →重い	
	底取りし難い←	→底取りし易い
	落下が遅い当たり減←	→落下が速い当たり増
	針が外れ難い←	→針が外れ易い
ヘッドの大きさ	小さい←	→大きい
	当たりが増える←	→当たりが減る
	針掛の邪魔にならない←	→針掛の邪魔になる
	針がリーダーに縺れ易い←	→針がリーダーに縺れ難い

また形状による違いは釣り方に影響します。特に速巻き、VS巻きなど釣り人が積極的にカブラを操作する場合には、引き抵抗の大きい形状や、不必要に揺れる物は操作の妨げになる場合が有ります。

(1) 丸型

長所はフォール、引きともに無駄な動きが無く姿勢が安定している。抵抗が小さくフォール が速く、引きが軽い。同じ重さなら見掛けが小さく当たりが増える。針掛の邪魔になり難い。 欠点はリーダーとチモトが近く針がリーダーに絡みやすい。

図18



(2) 扁平型

長所は丸型に比べ針がリーダーに絡みにくい。

欠点は同じ重さなら見掛けが大きく当たりが減る。針掛の邪魔になる。揺れやスライドの動きが引く時の邪魔になる。極端な物は穂先が振動し当たり感知の妨害になる。

図19

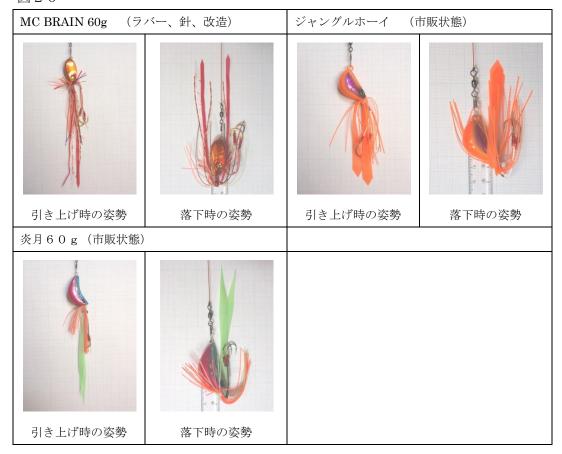


(3) 流線型

長所は引きの姿勢が安定し軽く引ける。

欠点はフォールの姿勢が立った状態なので、針とラバーがヘッドやリーダーに絡みつく。立った姿勢で着底するのでチモトやラバーがとても傷みやすい。

図20



(4) 鉛

密度 11.36g/cm3 、融点 327C 、金属の中では柔らかく融点が低いので加工が簡単。比較的 安価で有り、かつ密度も大きいのでカブラに最も多く用いられている金属です。 欠点は岩礁底で長時間使用すると底部が変形する事です。

(5) タングステン

密度 19.3 g/cm3 、融点 3410° 、非常に堅く、融点も非常に高いので加工が難しく高価な材料ですが、密度が鉛の 1.7 倍も有り同じ重さなら体積 6 割以下に小型化出来るので、フォール速度が速く底取りがし易くなります。

欠点は高価な事です。

2、針、チモトの選び方

(1) 針

針は鯛とじかに接する重要な道具で包丁やハサミ、ノミなどと同じ刃物です。使う針の特徴を知り使い込んで行かなければ自分の物に成りません。鯛ラバーに必要な針の基本条件は、軸の強度が高く延ばされ難い物ですが、これは鯛が頭を振って錘を振り回した時リーダーに掛る力の数倍の衝撃が針に加わる為です。その他に形状や大きさも重要な要素ですが、セッティングや釣り方、鯛の大きさによっても適正が変わって来ます。

・ 鯛の大きさによる選定

狙った大きさの鯛だけが釣れる訳では無いので、的をどこに絞るかによって選ぶ針の大きさを決めて下さい。またセッティングの種類によっては極端に小型や大型の針を使用する場合も有ります。

図21

	針の大きさ 10 号	11 号	12 号	13 号	14 号
鯛の大きさ 40cm 未満	0	0			
40~50cm		0	0		
50~60cm		0	0	0	
60~70cm			0	0	0
70cm 以上				0	0

・形状による選定

私が使用している針の特徴を挙げて見ましたので参考にして下さい。形状による違いはセッティングにも影響するので、特徴を掴んで使い分けて下さい。

図22



左図の針は左から喰わせ真鯛、かぶせマダイ、PEマダイ、PEマダイ X、PEブリ・ヒラマサ、剣華グレXです。

	喰わせ真鯛	かぶせマダイ	PEマダイ	閂マダイX
掛易さ	掛易い	掛易い	やや掛難い	掛難い
外れ難さ	外れ易い	やや外れ易い	やや外れ易い	外れ難い

針先が開いていると掛易く、内側に向いているネムリ型は掛難いです。針先が開いていると外れ易く、内側に向いていると外れ難いです。ネムリ型は一見使い難そうですが、鯛が反転した瞬間に合わせられれば閂や唇に掛る割合が高く成ります。 P E ブリ・ヒラマサ、剣華グレXはチモトを長くした特殊なセッティングに使用しています。

(2) チモトと結び

チモトは針とヘッドを結ぶ糸で針と同じくリーダーに掛る力の数倍の衝撃が加わり、時には 鯛の頑丈な歯に擦れたりしながら、10分以上の激しい攻防にも耐える強度が必要です。そ の他にも2本の針やラバーと絡み難い適度な腰や、結びが良く締まる事が必要な条件です。

図23

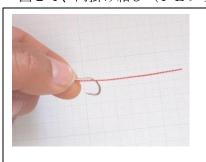


私はシーハンター10号を使用しています。結びに慣れるまでは8号が締め易いですが、腰が柔らかく多少ラバーと絡み易く成ります。必要な道具は指ぬき、小型精密ニッパー、小型ペンチです。

(3) 結び

良い結びが出来る様に成るには練習が必要です。とにかく沢山 結んで慣れて下さい。結びが出来なければ自分のセッティングを見つける事は出来ません。私は主に10号以下の針は内掛け結び、11号以上の針は内掛け本結びをしています。

・図24、内掛け結び (PEブリ・ヒラマサ8号とシーハンター10号)



1.

左手親指と人差し指で針の撞木を持ち、針の内側に糸を 添わせます。糸の本線は手のひら側、糸端は図中、右側 になります。

(図は右利きです。左利きの人は左右入れ替えて見て下さい。撞木とは針軸の端を平たく潰し結びが抜けない様にした部分です。)



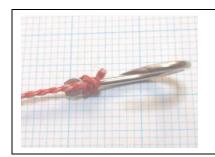
2,

糸端を輪の様にして針と人差し指の間に当て、針軸と直 交する様に持ちます。



3、糸端を輪に通し針軸に巻き付ける。一回巻くごとに 針と人差し指で巻き付けた部分を押さえ、巻きがほどけ ない様にします。

5	4、 3回巻き付けます。巻き付けの回数は少なくても、多く ても締まり難く成ります。回数は針軸の太さ、撞木の大 きさと、糸の太さにより変えます。 (シーハンター10号では3回が基本で±1回で結ん でいます。)
5	5、 本線を引いて輪を締めます。巻き付けが整っているのを 確認して本線を針軸の内側にして結びを撞木に当てま す。
	6、 指抜きをしてペンチで糸端を持ち強く引いて結びを締めます。左手に持った本線が滑るとケガをするので必ず 指抜きをして下さい。
	7、 結びが綺麗に締まって本線が針軸の内側に有るのを確 認して下さい。
	8、 ペンチで針軸を持って本線を強く引き結びを撞木に密 着させます。
	9、 糸端を 1.5mm 残し切ります。糸端に残りが無いと結び がほどける事が有ります。



10,

針軸の内側に結びのタスキ掛けが収まっていけば正し く結べています。

・図25、内掛け本結び(閂マダイX13号とシーハンター10号)

